

環境に係る情報協議会

国営総合農地防災事業 川湯跡佐南地区

1. 環境に対する考え方

《農村環境の現状と課題》（「弟子屈町田園環境整備マスタープラン」より）

【現状】

・町全面積の65%を阿寒摩周国立公園が占めている弟子屈町は、町の過半数が自然公園法により守られており、数多くの動植物が生息し、世代交代が行われている。

【課題】

・町の自然環境については、今後、関係機関による観察会や学習会の機会提供と参加する町民の意識の高揚がより以上に求められる。
また、自然を総称する森林のうち、天然林は58%となっている状況から今後、町有地及び民有地の保育・間伐を適正に実施していくことが重要である。

《環境保全の基本的考え方》（弟子屈町「田園環境整備マスタープラン」より）

- ・水土保全機能の維持・増進。
- ・森林の維持、森林の持つ機能を最大に図る。
- ・周辺環境と調和のとれた事業を展開。

2. 環境調査計画の策定に向けた調査

《基本方針》

本地区は、北海道上川郡弟子屈町に位置し、一級河川釧路川水系屈斜路湖に拓けた農業地帯である。

阿寒摩周国立公園に指定されている屈斜路湖の周辺には、農地、山林及び防風林により農村景観が形成されており、排水路及びその周辺では多くの生物の生息、生育が確認されている。

本事業においては、弟子屈町の田園環境整備マスタープラン等との整合を図り、生態系や景観との調和に配慮する。

《取組内容》

(1) 生態系への配慮

- ・排水路に設置する落差工は、水面落差を低減させた形式とし、魚類の移動が可能となるよう配慮する。
- ・工事实施前に希少植物の目視調査を行い、生育が確認された場合は、必要に応じて工事区域外の生育に適した場所へ移植等を行う。
- ・魚類の生息環境に配慮するため、工事の実施に当たっては、沈殿・ろ過等の濁水処理施設を設置し、濁水流出を防止する。

(2) 景観への配慮

- ・排水路法面に自然繊維シートを施工し、現況植生の早期回復を行い、農村景観との調和を図る。